

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

シーサーブログにはアクセス解析がついていて、訪問者さんがどんな検索単語で来てくれたのか、ブログの編集画面から確認できるんです。

昨日なんとなくそれを見ていたら、「常木らくだは反面教師」というキーワードがあって、地味にショックを受けました。

やめてくれ！（笑）

自覚はものすごくあるけど、人から言われると傷付くわ！

しかし、ショックを受けつつ、それと同時にニヤリとしました。

こういう感じの、ちょっと遠回しな罵倒って、新鮮ですよ。

それに世の中を見渡せば、真面目な投稿ブログはきっとたくさんあると思うので、自分はいくまでも、「あいつバカだね」「あんな風になりたくないね」という、失敗例のポジションを狙っていこうと思います。

それはそうと、キンドルが届きました！

しかし WiFi でネットに接続しないと、初期設定ができないっぽかったので、仕方なしに無線 LAN ルーターを注文することに。

完全にオフラインじゃダメなのね……。

まあ確かに、本を買わせることが Amazon の目的なんだから、当然ではあるけど……。

というわけで、明日ルーターが来る予定なので、届いたら使ってみようと思います。

それから例によって、先月のブログをパブーにアップしたので、リンクを張っておきます。

らくだ図書館（16）

<http://p.booklog.jp/book/70685>

Kindle Paperwhite を使ってみました。

詳しいレビューサイトはたくさんあると思うので、ここでは「自分で書いた小説を読む」に焦点を絞って、使った感想を書いてみようと思います。

### 1. ファイルの転送

本体購入時にファイル受信専用のメールアドレスが割り振られるので、Kindle で見たいファイルをメールに添付して、そのアドレスに送るとクラウドに保存&端末にダウンロードされます。

試しに色々送ってみました、どれも3分程度で届きました。

WiFi 環境が必要で、3G 接続では利用できないので、その点だけ注意が必要かもしれません。

### 2. ファイル形式

.pdf はページのスクロールが面倒、.txt は何故か改行データが飛ぶ……。

というわけで、.docx をそのまま投げたところ、とても綺麗に表示できました。

ただし、Word でルビを付けた箇所は、すべて削除されてしまいました。

単語が抜けていると混乱するので、ルビの多い作品は、修正してから送るべきかも。

ちなみに、ヘッダーやフッター（欄外のページ数など）は綺麗に無視され、本文のみを Kindle 形式に変換して表示してもらえます。

ルビが消される問題を除けば、割と相性はいいみたいです。

### 3. フォントの変更

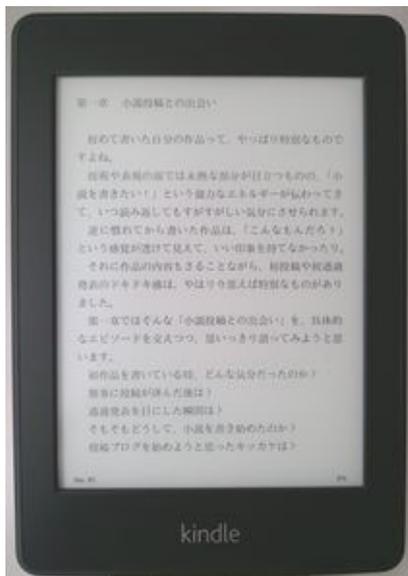


文字の大きさは「8種類」、字体は「2種類」、行間と余白は「3種類」から選択可能。

自分は写真の状態がベストかな、と思いました。

この設定だと、1画面に25字×20行表示できます。

400字詰め原稿用紙が20字×20行なので、それよりちょっと多い量ですね。



#### 4. 全体の感想

想像していた以上に、ライトやモニターの質感が自然に近く、とても見やすいです。

宣伝するわけではありませんが、買ってよかったと感じました。

一画面に表示できる情報量は、やはり紙に負けてしまいましたが、何冊も保存できて持ち運びできる点は何よりも魅力的。

完成後の作品を読んで楽しむのはもちろん、パソコンで表示するのと視覚的な印象がだいぶ違うので、投稿前の文章チェック時に重宝しそうだと思います。

紙には紙の魅力があるので、「取って代わる」とまではいきませんが、今後は両方とも併用して使っていこうと思います。

今日の話は、執筆と音楽について。

皆様は執筆中に、音楽を聴きますか？

自分の場合、日記を書く時は聴きますが、小説を書く時は聴きません。

日記を書く時は、音楽を聴くことで外界をシャットアウトして、ひたすら自分の世界に没頭しながら文章を書きまわります。

それがもう、楽しいの何の！

暗いと言われようが、事実だから仕方ない！

しかし、小説を書く時は頭を使うので、なるべく聴かないようにしています。

歌詞が入ってくると、その情報に注意がいくので、集中できなくなるんですよね。

日記を書く時は、音楽を聴くことで集中できるのに、小説の場合は何故か正反対という、自分でも不思議なこの現象……。

でも一つだけ確実に言えるのは、好きな音楽をガンガン聴いていると、創作のモチベーションが上がるということ！

これまでも、「この曲の世界を表現したい」と思って書いた作品は多数あるし、ふとインスピレーションが湧くのも音楽を聴いている瞬間が多いです。

もちろん歌詞をそのまま流用するわけじゃなく、出来上がるのはその曲と全然違う小説だったりするんですが、音楽を聴くと創作のパワーをもらえるのは確かです。

あと、言葉選びの勉強になるので、歌詞カードを見るのも大好きですね。

内容にも共感できて、しかも綺麗に韻をふんでいる歌詞とか、本当に見習いたいです。

そんなわけで、今日は特にオチもないですが、これからも素敵な音楽にたくさん出会いたいなあーと思います。

先日の記事に書いた通り、Kindle を使い始めましたが、やはり一長一短だなあーと。

「あのシーンどう書いたっけ？」とか、「冒頭に何枚くらい使っただろう？」とか、そういうことを確認するには、やっぱり紙原稿の方が便利だと思います。

何より電子書籍リーダーだと、全体のバランスが、感覚としてわかりにくい……。

一応「残り〇〇%」という表示は出るんですが、読んだ量や残りの量が厚さでわかるという、アナログの良さは偉大だと感じました。

でも、いい部分も大きいんですよ。

何度も主張してますが、最大の魅力は、寝転んで読める点です。

寝る直前や、休憩中など。

ちょっと時間があいた瞬間に、好きなシーンを読んで、自分の作品の世界観にひたる！

ということを、自分は結構よくするので、その使い道には本当に便利です。

小説って基本的に文字だけなので、文章を読んで内容を脳内構築しないと、その作品の世界にひたれないじゃないですか。

だからこそ、好きなシーンや好きなセリフは、完全に覚えていても何度だって読み返したいし、読めばいつでも幸せな気分になれるんです。

自己満足だと言われようが、自分の作品は、やっぱり全部好きですもんね。

完成作品はどれも自分の宝物であって、受賞するための道具ではないので、仮に一次落ちしても大切さは減りません。

というわけで話がずれましたが、紙と Kindle はどちらも一長一短だと思うので、適材適所で両方活用していこうと思います。

今月は小説投稿の予定がないので、少し早めに、アルク翻訳大賞に取り組むことに。

というわけで。

珍しく英語の勉強をしていたら、「hypertension」という単語に出会いました。

ハイパーテンション！？

どんなスゴイ状態なんだ！？

と思って意味を見たところ、なんと「高血圧」なんですね（汗）

「最近うちのおじいちゃん、ハイパーテンションなのよ」とか言ったら、ものすごい必殺技を繰り出しそうなイメージですが、実際の意味は高血圧……！

というのを想像して、一人でウケました。

英語の勉強もなかなか奥が深いです。

あと思ったのは、翻訳系の賞って、作業の過程が大事だなあと。

「落選した＝無意味だった」じゃなく、上のハイパーテンションの例にしても、勉強すればするだけ知識の蓄積が増えますよね。

受賞できたら嬉しいことは間違いなく事実ですが、賞をキッカケに勉強することだって、とても大切に意味のあることだと思います。

これは翻訳だけでなく、小説投稿についても、きっとそうじゃないかなと。

落選直後は「この半年間は無意味だった」と思っちゃいますが、書いたこと自体でレベルアップしているはずであって、その一作を完成させた経験は決して無駄ではないと思います。

というわけで、まだ先は長いですが、これからもハイパーテンションで頑張ります！

デザートに食べた、素敵なパンケーキ。  
アイスと生クリームがおいしかったです。



というわけで。

J R大阪駅前に先日オープンした、グランフロントへ行ってみました。

大型連休中ということもあり、ビルの中はすごい人でしたが、紀伊國屋が素敵でしたね。  
阪急下の梅田本店より売場が広く、在庫（品揃え）も多い印象を受けました。

ジュンク堂の規模には及ばないものの、店内の雰囲気も良かったし、何よりも大阪駅から近いのは魅力的。

今はすごい人ですが、これから落ち着いてきたら、居心地のいい空間になりそうです。

あと、今さら気付いたんですが、東梅田の旭屋のビルがなくなっていました。  
まだ当分先だと思いますが、旭屋のリニューアルオープンも待ち遠しいところ。

だってやっぱり、大きい本屋へ行くと、心がワクワクしますもんね！

以前海外に住んでいた時、唯一不満だったのは「本屋へ行けない」ということだったので、いつでも自由に本屋へ行ける今は幸せだと思います。

あと、話は変わりますが、このブログも今月で16か月を迎えました。

もうすぐ500回になりますが、小説を書くの同様、ブログの更新も本当に楽しいです。  
今後も力の続く限り続けますので、これからもよろしくお願いします！

寝る前の読書に、Kindle を活用中。

数日前に縦向きの写真を載せましたが、横向きにしたら一行に 38 文字表示できたので、だいぶ読みやすくなりました。

しかし……。

面倒なのは、頭出しです……。

購入した本ならページを指定して移動できるみたいですが、自分で入れたファイルにはページ情報がなく、移動する時は「行」で指定しなきゃいけないんですよね。

ちなみに、自分の作品を入れてみたところ、平均して一作につき 3,000 行ありました。

つまり「今夜は 57 枚目の告白シーンを読もう」と思っても、それが 3,000 行の中の何行目かなんて覚えていないので、何度も適当に数字を入力してやっと該当のシーンに辿り着く、という具合です。

単語検索はできますが、それもまた、別の意味で厄介です。

そのシーンにしか出てこない珍しい単語があれば、それを入力すればいいんですが、キャラ名なんて入れたら大量にヒットするし……。

毎回ブックマークするのも面倒だし、こういう部分の利便性については、やっぱり紙原稿が一番だなあーと。

最初から順に読んでいけば何も問題ないんですが、頭出しの利便性というのは実際に使ってみて初めてわかる部分なので、電子書籍リーダーも奥が深いと感じました。

他にも何か気付いた部分があれば、その都度書いていこうと思います。

今日の話は、メインキャラの人数と配置について。

皆様は長編を書く時、メインキャラクターを、何人くらい置きますか？  
自分の場合、特別な事情がない限り、3人で進めていくことが多いです。

よく「少なすぎる」って言われるけど、昔は2人の作品を書いたりしていたので、3人でもかなり頑張っている方なんです……。

ちなみに3人の内訳は、「男1人&女2人」です。  
しかしライバル関係にはならず、女性キャラ同士はとても仲がいい、という。

つまり、恋愛フラグはあくまで正ヒロイン一人に立っていて、サブヒロインは正ヒロインと主人公の仲を応援している、という感じ。

でも、本当のところは、サブヒロインも主人公のことが好きで。

表向きは正ヒロインを応援しているものの、一日だけ彼をひとり占めできたら、わたしはどんなに幸せだろう……みたいな。

そういう「忍ぶ恋」って、いいと思いませんか？

三人でいる時にいたたまれなくなって、でも表には出さず無理して笑ってる……とか、個人的にかなり萌えだと思えます。

ん？

となると自分は、正ヒロインよりも、サブヒロインの方が好きなのか？

ということを、ふと何気なく考えたので、こうしてブログに書いてみました。

別にまったく狙ってないのに、何も考えずに自然に書くと、いつつもそういう配置になるんですよね……。

最近のラノベはハーLEM展開ばかりでウンザリだ！

自分は心底そう思っている一人ですが、時代の流れを無視するわけにもいかないので、ハーLEM展開のいったい何が悪いのか真剣に考えてみました。

まず、ハーLEMの定義ですが、「複数のヒロインが登場して主人公が全員からモテる」。

それ自体は、別に問題ないと思います。

かわいい女の子がたくさんいれば、雰囲気も華やかになりますからね。

それなら、何が悪いのかというと、問題は主人公にあるんじゃないかと。

1. 主人公の態度が曖昧で、誰が好きなのかわからない ⇒主人公に共感できない
2. 主人公に魅力がなく、モテる理由がわからない ⇒ヒロインに共感できない

という2点によって、男女どちらにも感情移入できないという、ラブコメとして致命的な状況が生まれていると思うんです。

その証拠に、『ああっ女神さまっ』という作品。

設定は完全にハーLEMですが、自分はあの作品が好きでした。

1. 主人公は正ヒロインが好きで、他のキャラに目移りしていない
2. 主人公が女性キャラに対して優しいので、好かれる理由がわかる

という理由から、どの登場人物にも共感できて、読んでいて楽しかった記憶があります。

ラノベじゃなくてマンガですが、ああいう丁寧さは見習いたいです。

結論

『ハーLEM自体が悪いのではなく、問題はすべて主人公にある！』

というわけで、ハーLEM展開を書く時は、主人公の描写に気をつけようと思います。

これは自分だけじゃないと思うんですが、一度出したキャラを他の作品に登場させるって、割とよくあることですよ？

番外編とか、パラレルワールドとか、そういう意味合いではなく。  
まったく違う話なんだけど、キャラだけ取り出して、別の物語に登場させるっていう。

そういう感じで、もう何度も書いているキャラがいるんですが。

しかし自分では同じキャラを書いているつもりでも、ストーリーによって個性がかなり違って来るから、創作は奥が深いなあーと思います。

なんかこう、うまく表現できませんが……。

たとえば『太郎』というキャラを何度も書いているとして、「あの作品の太郎だったら、こんなこと言わないのに」とか、「あっちの作品の太郎は、ここまで積極的じゃないな」とか。

自分の脳内では全然ブレておらず、太郎のキャラは完全に固定状態なんですが、話の中でどういう役割を与えるかによって、外面に滲み出る個性が違って来る、というか。

その結果「作品Aの太郎は最高だけど、作品Bの太郎はイマイチ」という状況が生まれるわけで、キャラクターとストーリーは有機的に結びついているんだなあーと。

そういうわけで。

大好きなキャラを作品に登場させる時、描写そのものに力を入れることも大切ですが、その子がもっとも輝ける舞台を用意することも、とても大事な要素だと考えた次第です。

自分が何度も書いているそのキャラも、まだベストと思えるような状態ではないので、これからも試行錯誤しつつ可能性を探っていきたいです。

少し前に書いた通り、今月は投稿の予定がないので、アルク翻訳大賞に取り組んでいるのですが。

今年の字幕部門の審査員が、映画『カンフー・パンダ2』の吹替を手掛けた翻訳家さんだと知り、モチベーションが一気にマックスまで上がりました。

うおおおおー！

ものすごい訳文を送って、絶対に目にとまるんだ！

と叫びたくなるほど、『カンフー・パンダ』と、『カンフー・パンダ2』は、名作だと思います。

あの作品のユーモアは素晴らしいです。

あまりにも面白くて、映画を見終わった後、自分のギャグセンスのなさに失望しました。

それはそうと、字幕翻訳。

制限字数内で一応翻訳できましたが、今年の課題の映画はすでにDVDで出ているので、せっかくだから見てみようと思います。

でも、真似になったら駄目なんですよ……。

そもそも模範解答を丸写ししたら、賞に取り組む意味がないですし……。

なので、すでに出来た自分の訳は尊重しつつ、プロの翻訳家さんはどう訳しているのか、参考資料(?)として見てみます。

実際の映像を自分で見れば、課題の本文だけじゃわからない、その場の雰囲気がかみ取れますもんね。

まだ出版部門と実務部門もありますが、とりあえず今は字幕部門を頑張ります！

次に書きたい話が急に浮かんできたので、ひとまず前準備として、そのテーマの資料本を買ってきました。

よーし！

かなり分厚いけど、頑張って読むぞー！

しかし本棚をふと見れば、これまでに買った資料本も、相当多岐にわたります。

西洋ファンタジーを書く場合は、歴史書だったり、ヨーロッパ文化の紹介本だったり。  
スポーツ物を書く場合は、その競技の入門書だったり、トップ選手のエッセイだったり。

学園ラブコメだったら資料なしで平気ですが、未挑戦のジャンルに取り組む場合は、事前に勉強が必要なので執筆も大変です。

でも、その大変さこそが、小説執筆の一番の魅力ですよ。

そもそも、歴史書やスポーツの入門書なんて、理由がなければ絶対に読みません。  
でも、「どう書こうかな？」と考えながらだと、分厚い専門書だって楽しく読めます。

執筆の為に、読まなかったはずの本を読み、自分の知識が少しずつ確実に増えていく。

それってとても、素敵なことです。

周囲に非難され、後ろ指をさされるような、そんなネガティブな趣味ではありません。

それほど素晴らしい小説投稿と、こうして出会えて付き合っていけること自体、むしろ奇跡じゃないですか？

という感じに、誰にともなく同意を求めつつ、今日は以上です。

それにしても、早く書きたいなー。

なんと！

当ブログ『らくだ図書館』は、本日で更新 500 回を迎えました！

500 回ってことは 1 年と 135 日なので、そう考えると長いですが、あんまり努力した感覚はなかったり。

もしブログの更新が義務だったら、たぶんできなかつたと思います。

でも実際はそうじゃなく、100%趣味の産物だからこそ、続けることができました。

自分は文章を書くことが好きなので、手書きにしるPC入力にしる、文章を書いている時は時間を忘れま  
す。

小説を書くのも、日記を書くのも、手紙を書くのも、翻訳作業も大好きです。

でもそれだけじゃ足りないなので、毎日一定量の文章を書き続けるために、こうして投稿ブログを始めまし  
た。

自分が一番好きなことに取り組んで、なおかつ周囲の人々をハッピーにできたら、それって本当に最高で  
すよね。

まあ、『らくだ図書館』を読んでハッピーになれるかは不明ですが、読んで不幸になることはたぶんない  
と思うので、これからも地道にひっそり続けていこうと思います。

というわけで。

ここまで来たら、次の目標は 600 回と言わず、1,000 回を目指したいですね。

1,000 回というと、2 年と 270 日です。

それまでに受賞して卒業したい気もしますが、今のこの状況もそこまで嫌いではないので、あせらず頑張っ  
ていこうと思います。

アルク翻訳大賞・字幕部門の課題映画となっている、『コナン・ザ・バーバリアン』のDVDを見たんですが。

首が吹っ飛んだり、腕が吹っ飛んだり、足が吹っ飛んだり。  
一言で表現すると、ずいぶんと血なまぐさい映画で、とても疲れました。

そうかと思えば、かなり唐突に始まる、ラブシーンの直接描写。

やっぱり来たか！  
R15って書いてあるから、そういう予感はしてたけど！

しかしストーリー上必要にしても、そのシーンが作品に貢献しているとも思えないから、そこは朝チュンでいいんじゃないかな？ みたいな。

あと、復讐のためとはいえ、主人公が問答無用で敵を殺しまくるので、むしろ主人公の方が悪役に見えてしまうという。

スプラッター映画の愛好家から見れば、この作品はむしろソフトなのかもしれませんが、残念ながら自分には楽しめない内容でした。

しかし課題という面では、見てプラスになりました。  
状況1はもちろん、特に役立ったのは、状況2の会話です。

セリフだけ読むとケンカっぽいので、「激しく口論する場面なのかな？」とっていたんですが、実際はかなり淡々とした雰囲気でした。

やっぱり、字幕部門で上位を狙うには、実映像を見ることが必須ですね。  
当然かもしれませんが、去年はそれをしなかったのが、今回見て特にそう感じました。

というわけで、DVDを参考にしつつ、これから自分の訳文を見直してみます。

電撃の締切りから早くも1か月が過ぎ、次回の募集要項が発表されていますね。

ちょっと見てきたんですが、基本的な内容（制限枚数や文字体裁）は、例年通りみたいで安心しました。

それにしても、今度のイメージイラストは、ビブリアかぁ。

MWの作品が来たのって、たぶん初めてですよね？

今後MW枠が増えていくのであれば、ニッチな作品を書く者としては嬉しいです。

そして、そして。

次回の要項もさることながら、やはり一番気になるのは、第20回の応募総数。

毎年6月10日だったはずの総数発表が、去年は何故か5月25日に来たので、今年もその可能性を期待してF5連打！

特に今月は、25日が土曜日だから、場合によっては来週発表の可能性も……？

別に応募総数をいち早く知ったところで、何かが直接的に変わるわけでもないんですが、総数を見てガクブルするのも祭りの一部でもんね。

それから、来年の電撃用の作品が浮かんだのですが、さすがに今から書いたら早すぎるので、勉強に時間をかけてゆっくり仕上げたいと思います。

今までの自分は、軽めの作品を量産するタイプだったんですが、今後は骨太な作品を少数精鋭で書こうかなあと。

ファミレスの店員から、頑固職人に転職する、みたいなイメージで。

とにかく、締切りのないこの時期だからこそ、勉強や自分磨きを頑張ろうと思います。

ついさっき今年初の「蚊」を発見し、ショックを受けた常木らくだです。

GW中は暖房をつけるほど寒かったのに、今は半袖で外出しても汗が出てくる暑さ。  
この最近の異常気象については、地球に詳しく話を聞きたいです。

さて。

今日の話は、印刷用紙について。

つい先日、過去の原稿をB 5用紙に印刷してみたんですが、思っていたほど読みづらくなかったです。

読みづらくないというか、余白を最小まで減らしてみたら、普段のA 4とまったく同じ文字サイズで印刷できました（汗）

これならもう、自分用の原稿はすべて、B 5で印刷しておけばよかったです。  
1枚なら大差ないですが、100枚ともなると、かなり軽くなりますもんね。

あと、両面印刷したら、重さも半分になるよなーと。

コレはあまりにも今さらですが、今まで機械的にA 4片面で印刷していたので、自分用の原稿をちょっと見直してみようと思いました。

寝る前の読書については、キンドルが役立っていますが、質感が素晴らしいですね。

iPhoneなんて、「ケースを買わせるためにわざとだ！」と思うほど指紋が目立つのに、キンドルは本体も液晶もツヤ消しなので、ケースなしでも安心してさわれます。

というわけで、とりとめのない内容になりましたが、今日は以上です。

5月は特に動きがないので、おそらくえんための発表があるだろう、来月中旬が待ち遠しいです。

『もらい泣き（一青窈）』という歌の中に、「迎えが来ないシンデレラ」という歌詞があるのですが、何年も前に初めて聴いた瞬間から、そのフレーズがとても気になっています。

迎えが来ないシンデレラ。

この言葉をパッと聞いて、どんなイメージが湧きますか？

自分の場合、最初はただ単純に、「それじゃ可哀そう」と思いました。

でもよく考えてみたら、この現実社会においては、誰もが皆その状態なんですよ。

もっと言うと、小説投稿の世界（特に落選直後）なんて、まさしくそう。

せっかく着たドレスを、ビリビリに破かれて。

誰に知られることもなく、歯を食いしばって、一人で悔し涙を流している。

でも。

ここは現実なので、どれだけ待っても、魔法のおばあさんは来てくれません。

だからこそ、私たち投稿者は、自力で立ち上がらなきゃいけません。

だって、服とも呼べないボロボロをまとって、そのまま一人で泣き寝入りするなんて、あまりにも悔しいじゃないですか？

馬車がないなら自力で走って、とにかく舞踏会へ辿り着きたい。

そこで勝負できるかは別問題として、遠くからお城を見ているだけというのは、何があっても絶対にイヤなんです。

そう思っているからこそ、どれだけ一次落ちしても、懲りずに投稿しちゃうんですよ。

とにかく投稿というのは、他力本願では何も起こらない世界なので、自分をどれだけ信じられるかが重要だと思います。

次に書く予定の作品について、具体的なエピソードが、ふつふつと浮かんできました。

資料読みを放棄してこのまま書き始めても、まあそれなりの作品が出来そうですが、ここはあえて書きたい衝動をグッと我慢。

だって小説投稿は、「まあそれなりの作品」では、絶対に勝ち抜けませんからね。

当たり前の事実ではありますが、賞の成績にしたってそうです。

2本が1次通過するよりも、1本が2次通過してくれた方が、受賞にもデビューにも近い。

なので今年は、「量より質を重視」作戦で、1本の作品に時間をかけようと思います。

あと、これまで毎回違った作品を書いているつもりでも、根本的な弱点はずっと一緒だったことに気付いたので、今回は取り組み方を根本的に変えなきゃなあーと。

作品ごとにテーマは違っても、クオリティはずっと一緒だった、とでも言うか。

毎回違うドレスを着てるんだけど、ドレスの値段は結局どれも同じ、みたいな。

なので今回は、ドレスの値段を上げることに、全力を尽くそうと思います。

やっぱり、ほら。

昨日もシンデレラの例を書きましたが、投稿で頼れるのは自分の作品だけなわけで。

自分がシンデレラであり、自分が魔法のおばあさんであり、何もかも自分ですべて準備した上で、舞踏会に参加しなきゃいけない。

今までそういう自覚が足りなかったので、作品を通して自分をどう見せるかについて、もっと責任を持たなければと思いました。

とにかく、今は下準備を頑張って、一段レベルアップした作品を書きたいと思います。

『アルク翻訳事典』に掲載されている、誌上翻訳レッスンを読みました。

その中に載っていた、「吹替と字幕の違い」という話が、とても面白かったです。  
「同じ英文を訳すにしても、吹替と字幕では、ベストな表現が違ってくる」という話です。

たとえば、例として載っていた「Dad, you want some water?」という短い文章。

吹替の場合は、耳で聞いてわかりやすいことが第一なので、講師の訳例は「父さん、水飲みたいの?」になっています。

その一方、字幕の場合は目で見えてわかりやすいことが第一なので、よりシンプルに「父さん、水を飲む?」。

他にもたくさん例が出ていますが、総じてこんな傾向があるようです。

#### <吹替>

- ・あまり堅苦しくならないよう、話し言葉に近い単語選びを
- ・同音異義語は避ける
- ・その方が自然な場合は、助詞を省略するのも可

#### <字幕>

- ・ひらがな、カタカナ、漢字を適切に使い分けて、視覚的に見やすい文章を
- ・助詞を省略すると、文章の構造がわかりにくいので、極力入れるように
- ・長くなる語尾は避けて、言い切り表現をうまく使う

小説の場合は目で見てもらう文章だから、あえて言うなら字幕に近い方がいいのかなぁーと、自分の好みとしては思います。

でも、会話が不自然になってもダメなんですよね。

視覚的に見やすい文章を書きつつ、話し言葉のような自然な流れを失わないよう、気を付けていこうと思いました。

この週末に関西空港で開催された、「関空旅博 2013」へ行ってきました。

さすがに観光PRのイベントだけあって、全国各地のゆるキャラがたくさん登場。中でもスゴかったのは、あのキャラの人気です。



くまモン！

客席のお客さんから、プレゼント（似顔絵？）を渡されて、ご満悦な様子です。まさしく、スーパーアイドル！



他のお客さんのカメラの隙間から、チラ見えするくまモン。

くまモン体操も踊ってくれました。

体型はふくよかなのに、動きが想像以上に機敏という、そのギャップに萌えです。



ステージが終わった後は、ちょっと時間を置いて、お客さんとの記念写真タイム！

しかし、人出が多すぎて、会場が大変なことになっています。  
くまモンが、なかなか熊本のブースまで辿り着けません（汗）



↑ この中に一人くまモンがいる！

最終的にはちゃんと、熊本ブースへ到着しました。  
よかったね、くまモン！



というわけで。  
関空は長年使っているものの、ゆっくりしたのは初めてでした。

意外な発見もあったので、機会があれば、また行きたいと思います！

先日メールを書いている最中、「異世界ファンタジー」が「胃世界ファンタジー」に変換されて、ひどく失望させられました。

胃世界！？

そんな夢のないファンタジー作品、お断りだ！

それにしても、以前は「イチョウ並木」が「胃腸並木」に変換されたし、自分のPCはものすごく胃が大好きらしいです。

さてさて。

アルク翻訳も一段落したので、次回作の資料本を少しずつ読んでいる途中ですが、これがなかなか楽しいです。

あまりに楽しいので、我慢できなくなって、ちょっとプロローグを書いてみました。

いい感じだし、書きやすい。

死亡フラグ発言ですが、それでもここに書きたいくらい、いけそうな予感がします。

波に乗っていない時は、1日中執筆しても3行しか進まない、とかザラにあるんですけどね。

逆にスイッチ全開になると、1日に10万字以上書けるような状態になるので、執筆できる量というのは本当に波が激しいと思います。

ただ、そういう超サイヤ人みたいな極端な状態になると、作品完成後に2か月くらい休養が必要になりますが……。

まあとにかく、今書き始めた作品は、来年の電撃が目標なので。

必要以上に焦りすぎず、しかしダラダラもせず、真面目に書いていきたいと思います。

免許証の写真って無表情で味気ないので、思いっきり笑顔で写ろうとしたら、「笑わないで下さい」と係員に注意されたことがあります（実話）

すみません……。

せっかく笑顔を出したのに、さみし恥ずかし気分です……。

でもやっぱり諦められないので、その次の免許更新時に、笑顔の写真を持って行ったんですよ。

自分で用意した写真なら、とびきり笑顔でも、文句ないだろうと思って。

しかしそれはチェキで自分撮りした写真だったので、係員に切ってもらったら、インスタントカメラの液で写真がベトベトに……！

で、「次から絶対にやめて下さい」って言われたけど、チェキ写真でも免許更新は可能でした（これも実話）

しかし、あれですね。

自分で用意するのは面倒なので、やはり写真は、その場で撮ってもらうに限りますね。

ただし最初から笑顔だと注意されるので、最初はあえて真面目な表情をしておいて、相手がシャッターを押す直前に笑顔を出す、とか。

笑顔が先か、シャッターが先か、瞬発力の真剣勝負……！

そんな問題児ドライバーの自分ですが、免許を取得してから一度も車を運転していないので、無駄にゴールド免許です（汗）

まあとにかく、次回の免許更新ではどんなネタを仕込もうか、今から楽しみです。

執筆に集中しだすと、平気で2時間や3時間が過ぎていて、時計を見て震え上がってしまうことがありますか？

というわけで、執筆のお供に、このアイテム。

<参考画像>



キッチンタイマー。

時間の減りが視覚的に見えるよう、あえてアナログ型を選びました。

マックス（60分）に設定して、常に稼働させておくと、色々便利です。

ずっと見ているうちに、「10分間でこれだけ進む」とか、自分の速度がつかめてきます。

逆に言うと、そのペースが落ちてきたら、「あー、疲れてるんだ」と自覚できるので、休憩を入れる目安にもなります。

ただし、気が引き締まるのも事実ですが、「時間に追われている感」がハンパないです。

なので、煮詰まっている時は、イライラが倍増して逆効果かも。

あとベル音がかなり大きく、調子に乗って1時間ごとに鳴らしていたら、家族から大ブーイングを受けました（汗）

というわけで、常時稼働はやめて、ちょっとダレている瞬間に、「ここぞ」で使うようにしています。

執筆のお供に、キッチンタイマー。

賛否はありそうですが、新鮮な気分になれるので、一度試してみてもいいでしょうか。

デジタルメモ機器、ポメラを購入しました！  
これで外でも執筆しちゃうぞ！

これまで外出時は、ペンとノートで執筆していましたが、これからはポメラになると思います。

アナログでも、別に不便はないんですが、人目が気になるんですよね。  
自意識過剰かもしれませんが、書いている内容が内容だけに。

あと家でも、パソコンを閉じている時に、ふといい会話が浮かんだ瞬間とか。

手書きだと、雑に書いても割と時間がかかるので、キー入力でパパッと打ち込めたら便利かなあと。

まあでも、「ポメラ大好き」という人がいる半面、「使いにくい」という人もいるようで、合う合わないもあるみたいなので、これから実際に自分で使ってみようと思います。

と言いつつ、せっかく届いたのに、単4電池がない悲劇。

そう……。  
ポメラって、充電式じゃなく、乾電池なのね……。

でも確かに、外で長時間使うには、そっちの方が便利かも。

Kindleを買ってからまだ間もなく、何やら電子機器が増えていきますが、それで執筆環境が向上するのであれば、投稿者として決して惜しくない投資です。

というわけで。  
ちょっと使い慣れてから、Kindle同様、レビューを書いてみます！

## くまモン撮影会 - 2013.05.25 Sat

---

高槻の西武百貨店で開催された、くまモン撮影会へ行ってきました。



先着50組限定のイベントです。

人数を区切ったの撮影会なので、くまモンに接近できる大チャンス！

自分は遅く行ったので列に入れませんでした。参加されている皆様は、思い思いの方法でくまモン愛をアピールしていました。



握手に応じるくまモン。

短い時間ですが、個別に対応してくれるのは、撮影会ならではの良さですね。

普通のイベントだと、とても近寄れないから、なおさら嬉しさ倍増です。



女性から贈り物を受け取って、嬉しそうな様子のくまモン。

中身は似顔絵？

それとも、手作りのワッペンか何かでしょうか？

それにしても、関空でも思ったけど、くまモンって普通にプレゼントを受け取ってくれるのですね。



撮影会終了後、何を思ったのか、百貨店のガラス戸を叩きまくる！

なかなか激しい動きでした。

しかもチラシを破ったという……。

まあでも、そんな自由さも、くまモンの魅力の一部です。



スタッフのお姉さんに連れられて、最後はちゃんと帰って行きました。

くまモン、お疲れ様！

近くでイベントがあれば、また見に行こうと思います！

「関西大学トップスケーターエキシビジョン」へ行ってきました。

【出演スケーター（演技順・敬称略）】

宮原知子、村元哉中、國分紫苑、山田耕新、田村岳斗、町田樹、織田信成

さすがフィギュアの強い関西大学だけあって、「本当に無料イベント！？」と確認したくなるほど、めちゃめちゃ贅沢すぎる顔ぶれです。

というわけで、まずはアイスアリーナの写真を。

テレビではよく見ますが、実際に来たのは初めてで、この時点ですでに感動！



気になるプログラムについては、楽しみにしていた宮原選手は『マンボ』、町田選手は『ドント・ストップ・ミー・ナウ』でした。

しかし町田選手のエアギターは、何度見ても毎回盛り上がります！

最初から最後までずっと、手拍子が鳴りっぱなし！

アンコールは昨シーズンのショート『F.U.Y.A.』で、途中から曲が流れたのでステップから始めるのかと思いきや、3ルッツも当然のように軽々と跳んでいました。

エキシビジョンのアンコールでも、少しも手を抜いたりしない町田選手。

今シーズンも応援したいし、プログラムの披露も、今から本当に楽しみです。

そして、織田選手のプログラムは、『ラスト・サムライ』でした。

おそらく、このプログラムは、今シーズンのショートなのでしょうかね？

曲名が紹介された瞬間、「キャー！」というファンの悲鳴が上がっていたし、さすがに地元ということもあって声援のスゴさが圧倒的！

衣装も雰囲気も曲の通り和風で、力強いと同時に悲哀も感じさせる、とても素敵なプログラムでした。

遠くから見ても空気感が伝わってきましたが、細かい振付がすごく独特で凝っていたので、秋以降にテレビで試合を見るのが楽しみです。

というわけで、おでかけ記事が続きましたが、明日からは平常運転に戻ろうと思います。

## ポメラの感想 - 2013.05.27 Mon

---

デジタルメモ機器、ポメラを使ってみたので、その感想を書いてみます。

自分が買ったのは、最下位モデルのDM5です。

実際に使ってみたら、想像以上にいい面もあり、想像以上に悪い面もありました。

まず、反応速度は十分に速いです。

自分のPCがショボいせいもありますが、むしろWordよりも速いくらいでした。

変換精度については、アマゾンレビューには不満の声もありますが、自分にとっては全然ストレスのないレベルでした。

あと、液晶画面の質感もいいですね。

バックライトが光らないので、長時間使っても目が疲れにくい。

物書きにとって、これは大きな利点です。

モニターは小さいですが、持ち運び前提の道具なので、そこは仕方ありません。

とまあ、いい部分もたくさんあるのに、それを吹っ飛ばすほど残念なのが、キーボードのタッチ感……。

まず、折り畳み式だという部分。

固い場所に置かないと、「く」の字型に曲がってしまうので、膝の上では使えません。

それから、ものすごく当然なのですが、PCよりキーが一回り小さいです。

この一回りというのが厄介で、PCの感覚でタッチタイピングすると、恐ろしい勢いでミスタイプ連発。

まあでも、キーボード以外には満足しているので、今後使いながら頑張っって慣れていこうと思います！

執筆中、もし仮に自分が3人いたら、どんな使い方をしたいですか？

1人は、執筆だけに完全に専念。

1人は、本屋や図書館へ出向かせ、調べ物や資料集めに専念。

そして最後の1人は、執筆用の自分にジュースやお菓子を出したり、外から帰ってきた勉強用の自分の肩揉みをしたり、雑用的な存在として使いたいです。

執筆の人、勉強の人、雑用の人。

この中で、どれをやりたいかって言うと、もう圧倒的に「雑用の人」ですね。

そりゃそうだ！

執筆も勉強も面倒でイヤだから、脳を使わない単純作業がしたい！

そんなお前は、本当に投稿が好きなのか！？（自問自答）

いや、もちろん、好きですが。

ただ執筆に疲れてくると、頭を使わない作業が、無性に恋しくなるんです。

まあ3人は贅沢にしても、仮に自分が2人いたら、1人は執筆に専念させて、1人は励まし役にしたいです。

「このシーン、削ろうか」とか、「うんいいよ、その調子ね!」とか、「ここで10分間、休憩しましょう」とか、ディレクター風にアドバイスして欲しいです。

というのも、ずっと一人で書いていると、かなり疲労していても休めなかったり、逆に書けそうな時にダラけてしまったり、精神のコントロールが難しいですからね……。

まあ今日の話は、何の役にも立たない、執筆中の妄想ですが。

とにかく、実際は自分一人なので、自分で自分を励ましつつ、明日以降も頑張ります。

ダメだ……。

今日は気合い不足で、新しいシーンが書けそうにない……。

というわけで、書けている枚数までを印刷して、じっくり読み直しをしてみました。

うん。

紙状態での読み直しは、やっぱりわかりやすい。

というか、今まで完成前は印刷しない主義だったけど、途中で印刷するのって実はすごく有益なんじゃ……？

そう気付いた自分は、すでに投稿5年目です。

あと、「どうせサンプル印刷だ」と思って、各キャラの台詞を蛍光マーカーで分けたんですが、これが非常にわかりやすく1人でとても感動しました。

色分けして確認すると、誰の発言が一番多いかはもちろん、台詞と地の文の比率も視覚的にわかるので、推敲の効率が大幅にアップしまくり。

あと、色分けによって、主人公がひとりごとを言い過ぎだと判明（汗）

「ああ」とか「あれ？」だけじゃなく、1人のシーンなのに3行くらい喋ってて、「1人なのにこんなに喋って、コイツはいったい何者だ！」みたいな。

まあとにかく、今日は試しにやってみただけですが、今後この方法を実戦に取り入れて、10枚くらい進んだらその度に印刷しようと思いました。

蛍光マーカー、おすすめです！

皆様やっていらっしゃるかもしれませんが、まだの方は是非！

そういうわけで、明日こそは気合いを入れて、新しいシーンを書こうと思います。

1. 新しい蛍光マーカーを買って気分ウキウキ。
2. 「大事な単語は黄色」「用語の説明はピンク」等の自分内ルールを決めて、教科書にラインを引きまくる。
3. カラフルになった教科書を眺めて、すごく勉強したような充実感を覚える。
4. しかしその教科書を見直すことはなく、テストで赤点。

という、ありがちな学生時代を送った、常木らくだのブログへようこそ！

……………。

皆様もありますよね？

それはそうと、蛍光マーカーが便利すぎて、推敲の楽しさがアップ中です。

誰と誰が会話しているか一目でわかるし、どちらが主導権を握っている場面なのか（発言量が多いか）、パッと見ただけで視覚的に伝わってくる。

もう、めちゃめちゃ便利です。

今更だと言われようが、何回だって主張します。

ただ、発言者が色でわかってしまう故に、相当な先入観が入るのも事実ですね。

特に「この書き方で誰の発言か伝わるか？」を見極めたい時、色が邪魔になって、文章を客観的に吟味できないという事態が発生したり。

なので、まずは色なしで推敲を済ませて、プラス一段階の付加作業として、蛍光マーカーを投入しようかなあーと。

いずれにせよ、テスト勉強の時のように、「塗って満足」にならないよう、しっかり見直ししようと思います！

5月が終わりました - 2013.05.31 Fri

---

5月もついに終わりですが、電撃の総数発表は結局なかったもので、例年通り6月10日発表なのでしょう。

去年のフライングは何だったんだ！？

たまたま集計が早く終わったのか！？

あとそれから、自分は未確認ですが、コバルト本誌で発表があったようですね。

選考に通過された方々は、おめでとうございます！

そうそう。

『マリみて』の後書きで知ったんですが、コバルト文庫の背表紙の色って、作者が自分で決められるらしいです。

自分だったら、このブログのイメージカラーでもある、からし色かなあ。

と、コバルトに送ってもいないのに、刊行時の文庫体裁をとらたぬ妄想。

とにかく、6月は発表が出始めるので、梅雨に負けずに頑張ります。

たぶん確実に出るのは、電撃の総数発表と、えんための1次ですね。

えんための目標は2次、ガールズの方は1次通過を目標に、発表を待とうと思います。

↑とか書くと、1次も通らず、すべて全滅するフラグ。

むしろここに書かなければ、送ったこと自体わからないのに、わざわざ書いてしまうんですね……。

いいんだ！

それでこそ、投稿ブログだ！

というわけで、6月も引き続き頑張ろうと思います。